

令和4年度事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

目次

1. 法人の状況に関する重要な事項
2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）
3. 事業報告附属明細書



1. 法人の状況に関する重要な事項

令和4年4月1日から令和5年3月31日に至る事業活動として、定款第3条に掲げる「実学の精神に則り、生物学的製剤等に関する研究・調査及び助成・顕彰等を行う等して、広く公衆衛生の進歩を図り、兼ねて自然科学の昂揚に資する」ことを目的として、定款第4条並びに平成31年4月1日付けで内閣府より変更認可を受けた公益目的支出計画に基づき以下の諸事業を行った。

本事業報告 段落番号	事業名	定款 第4条	公益目的 支出計画
1(1)	公益目的支出計画に基づく実施事業		
1(1)①	研究助成事業	(2)	公益1
1(1)②	顕彰事業	(2)	公益2
1(1)③	生物学的製剤等に関する研究・調査事業	(1)	継続1
1(1)④	予防衛生普及事業		継続2
1(1)④ア	医療技術者を養成する事業への協力支援	(3)	
1(1)④イ	奨学金給付	(6)	
1(1)④ウ	学術集会開催・後援	(7)	
1(1)④ウ	大学・研究機関の後援	(7)	
1(1)④エ	寄附講座	(7)	
1(1)④オ	印刷物の刊行	(7)	
1(2)	その他の事業		
1(2)①～④	医療機関等への協力・支援	(4)	
	地球環境保全に関連する事業	(8)	
	健康管理支援事業ほか	(9)	

定款第4条

(事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 生物学的製剤等に関する研究・調査
- (2) 感染症及び血液領域を中心とした研究等に対する助成・顕彰
- (3) 医療技術者を養成する事業への協力・支援
- (4) 医療機関への協力・支援
- (5) 印刷物の刊行
- (6) 奨学金の支給
- (7) 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援

- (8) 地球環境保全に関連する事業
- (9) その他当法人の目的達成上必要と認める事業

2 前項の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

(1) 公益目的支出計画に基づく実施事業

① 研究助成事業

感染症領域（人獣感染症含む）及び血液領域の発展に寄与することを目的に、両領域の基礎的研究を対象とした2つの研究助成事業を実施した。

「化血研研究助成」は年齢制限を設けずに公募し、先端的・独創的に研究に取り組んでいる日本の大学または公的研究機関等に所属する研究者個人若しくは研究チーム・団体に対して、1件あたり年1,000万円を3年間助成する。

「化血研若手研究奨励助成」は次世代の研究者の育成に資するために、45歳未満（申請締切時点）の研究者を対象に公募を行い、先端的・独創的に研究に取り組み、独立した研究課題（研究テーマ）を持った将来有望な若手研究者に対して、1件あたり300万円を助成する。

申請された候補者の中から、学識経験者14名で組織される助成選考委員会で選考した後、理事会において「化血研研究助成」6件（別表1）、「化血研若手研究奨励助成」10件（別表2）を決定し、計9,000万円を助成し、ホームページに公開した。合わせて、令和2年度及び令和3年度「化血研研究助成」対象者12名に、計1億3,000万円を助成金として支給した（令和2年度対象者1名には2年分2,000万円支給）。

また、令和3年度「化血研若手研究奨励助成」対象者10名による研究報告会を、令和5年3月9日開催した。

② 顕彰事業

感染症領域及び血液領域の研究において大きな成果のあった者で、今後も研究の進展に貢献が期待される個人・法人・研究チーム・団体を顕彰する事業を実施した。

当法人が定めた計16の学会（表1）、並びに当財団の理事及び評議員から推薦のあった者について、学識経験者8名で構成される顕彰選考委員会における厳正な選考を行い、理事会で第4回『太田原豊一賞』顕彰者2名を決定（表2）し、ホームページに公開した。授賞者には、令和5年3月9日開催の贈呈式において、太田原豊一賞（賞状、トロフィー）および副賞（1件 1,000万円）を贈呈した。

表1 推薦学会

・日本ウイルス学会	・日本エイズ学会	・日本感染症学会
・日本癌学会	・日本寄生虫学会	・日本血液学会
・日本血栓止血学会	・日本公衆衛生学会	・日本細菌学会
・日本獣医学会	・日本生化学会	・日本熱帯医学会
・日本免疫学会	・日本薬学会	・日本輸血・細胞治療学会
・日本ワクチン学会		

表2 第4回『太田原豊一賞』受賞者

氏名	所属 役職	受賞研究テーマ
荒瀬 尚 先生	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 副拠点長	宿主-病原体相互作用を標的にした感染症の病態解明
五十嵐 和彦 先生	東北大学 大学院医学系研究科 教授	BACH転写因子-代謝ネットワークによる造血細胞分化応答の制御

③ 生物学的製剤等に関する研究・調査事業

ア. 熊本保健科学大学 生物毒素・抗毒素共同研究講座

令和元年10月1日に熊本保健科学大学に開設した生物毒素・抗毒素共同研究講座において、生物毒素、抗毒素とその品質管理手法の開発研究等を継続して実施した。

イ. 熊本保健科学大学 品質保証・精度管理学共同研究講座

令和2年10月1日に熊本保健科学大学に開設した品質保証・精度管理学共同研究講座において、医薬品GMPとその医薬品等の品質保証、ISO15189を中心とした医学検査所の品質管理の調査・研究を継続して実施した。

ウ. 東京理科大学・社会連携講座 医薬品等品質・GMP講座

令和2年7月1日に東京理科大学薬学部に社会連携講座として開設した医薬品等品質・GMP講座において、医薬品GMPを中心とした研究とその教育システムの開発を継続して実施した。

④ 予防衛生普及事業

ア. 医療技術者を養成する事業への協力・支援

使途を医療技術者養成と指定して、学校法人银杏学園熊本保健科学大学に対し2,400万円を、国立大学法人熊本大学大学院生命科学研究部（保健学系）に対し1,000万円を寄附した。

イ. 奨学金の給付

熊本保健科学大学の学生に対し給付型奨学金「化血研奨学金」を、九州8大学（九州大学、熊本大学、長崎大学、佐賀大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）の医学部博士課程（感染症/血液専攻）、及び医学部医学科課程の学生に対して給付型奨学金「化血研医学奨励奨学金」の支給事業を行った（博士課程奨学金一人当たり月10万円（年間120万円）、医学科課程一人当たり月5万円（年間60万円））。

対象となる大学から推薦を受けた14名について、理事面接の上、全員への奨学金給付を決定した。令和4年度以前からの支給者42名と合わせて計56名（表4）に対し、総額3,630万円を支給した。

表4 奨学金支給件数（令和4年度）

	熊本保健科学大学	熊本大学	九州大学	長崎大学	佐賀大学	大分大学	宮崎大学	鹿児島大学	琉球大学	件数合計
化血研奨学金	12 (6)	/	/	/	/	/	/	/	/	12 (6)
化血研医学奨励奨学金	/	16 (3)	4 (1)	8 (1)	2 (1)	2 (0)	4 (1)	2 (0)	6 (1)	44 (8)
全体合計										56 (14)

※カッコ内は、令和4年度に新規に支給を開始した件数

ウ. 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援

1. 阿蘇シンポジウム（主催）

令和4年7月22日及び23日に、熊本城ホールにおいて第42回阿蘇シンポジウムを開催した。テーマを「PandemicからPrecision Medicineへの展開」とし、先端の研究者12名が講演を行った。シンポジウムはハイブリッド（現地開催+WEB配信）形式で開催し、参加者は393名（うち、現地参加者41名）であった。

2. 先天性代謝異常関連シンポジウム（共催）

令和4年度は、第10回九州新生児スクリーニング研究会を熊本大学小児科、一般社団法人 日本小児先進治療協議会と共催した。同会は新型コロナウイルス感染症流行のため、WEB開催で行った。

3. 肥後医育塾（共催）

熊本県民に対して定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに健康と医療を考えることを目的に、市民公開セミナー「肥後医育塾」を公益財団法人肥後医育振興会、熊本日日新聞社と共催した。令和4年度は、以下の3回の公開講座開催他の費用として、500万円を助成した。

開催日	テーマ	現地参加者
2022年7月30日	高齢者の『がん』治療～ひとりひとりに合った、適切な治療法の選択～	約90人
2022年11月13日	高齢者の「心疾患」治療～心疾患の種類とその治療～	約100人
2023年2月18日	高齢者の「脳血管疾患」治療～突然の発症に備えて～	約130人

4. 熊本大学夢科学探検（協賛）

本イベントは、最先端の科学を分かりやすく紹介しながら子供たちに感動を与え、興味を深めてもらおうと熊本大学が毎年実施しているもので、毎年、寄付金50万円を支出し協賛している。令和4年度は、令和4年11月3日に、3年ぶりに対面形式で実施され、約7,000名の来場者があった。

エ. 大学寄附講座

1. 熊本大学国際先端医学研究機構造血幹細胞工学寄附講座

熊本大学国際先端医学研究機構（IRCMS）に設置した造血幹細胞工学寄附講座（平成31年4月に設置）に対し、2,500万円を寄附した。

2. 熊本大学病院地域連携病理学寄附講座

熊本大学病院に設置した地域連携病理学寄附講座（令和元年10月に設置）は、代表者の転籍に伴い9月末をもって終了した。これに伴い、過年度に納入していた寄附金のうち、1,300万円が返金された。

3. 熊本大学フロンティアデータサイエンス化血研寄附講座

令和4年4月1日付で、熊本大学大学院先端機構にフロンティアデータサイエンス化血研寄附講座を設置した。本講座では、健康・公衆衛生・生体・物質材料分野等の研究においてデータサイエンスを展開し、データサイエンティストの育成を図る。本年度は3,640万円を寄附した。

オ. 印刷物の刊行

当法人の事業内容を紹介する定期刊行物「OH!120」を、令和4年5月及び9月の2回、それぞれ1,500部発刊した。当法人関係者等へ郵送若しくは配布したほか、当法人ウェブサイトにおいて公開した。

(2) その他の事業

① 健康管理支援事業

公益財団法人友愛福祉財団が実施主体である健康管理支援事業について、令和4年度の本事業に要する経費の当法人分担金として、1,529万2,746円を友愛福祉財団に支払った。

② 地球環境保全に関連する事業

水涵養の目的で、平成9年度及び平成10年度に九州森林管理局との分収造林契約に基づき熊本県山都町内大臣の国有林の一部に植林を行い、維持している。

③ 医療機関への協力・支援

当法人の理事1名が医療法人城南ヘルスケアグループの社員・理事に就任している。

④ 不動産賃貸事業

ア. 熊本県熊本市南区城南町舞原

年間を通じて、医療法人城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院に対し、その病院用地を賃貸した。

イ. 東京都港区白金台

賃貸用マンションの運営を継続した。

2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）

（1）内部統制システムの整備に関する決定の概要

令和4年度において、以下を改定した。

- ・文書管理規程 改定

（2）内部統制システムの運用状況の概要

コンプライアンス及びリスクマネジメントに関する会議を開催し、実施事業に関する関連法令等の遵守状況、リスクマネジメント状況について確認するとともに、内部通報制度の運用状況について確認を行った。

3. 事業報告付属明細書

別表 1 化血研研究助成概要

別表 2 化血研若手研究奨励助成概要

別表 1

【化血研研究助成】

感染症領域（人獣含む）及び血液領域を対象とした研究に対して助成を行い、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：3,000 万円 （1,000 万/年×3 年間）/件

助成期間：3 年

採択件数：6 件（申請件数 97 件：採択率 6.19%）

令和 4 年度助成採択者一覧

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
伊藤 美菜子	九州大学 生体防御医学研究所	准教授	血液中に存在する脳梗塞後の自己抗体や炎症抑制因子の探索
坂田（柳元） 麻実子	筑波大学 医学医療系	教授	加齢を素因とする悪性リンパ腫の発症機序の解明
園田 康平	九州大学大学院 医学研究院	教授	本邦に特徴的な CMV 血症・眼感染症眼内液由来 CMV ゲノム解析と抗 CMV 免疫の解明
原 博満	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科	教授	TREM2 を介した結核菌の許容的 Mφ の誘導と持続感染機構の解明
三原田 賢一	熊本大学 国際先端医学研究機構	特別 招聘 教授	hnRNP のストレス顆粒形成による造血幹細胞の防御機構
吉川 哲史	藤田医科大学 医学部	主任 教授	腸管粘膜免疫誘導能向上のための最適な宿主環境の解明

別表 2

【化血研若手研究奨励助成】

感染症（人獣含む）領域及び血液領域を対象とした次世代の研究者の育成に資するために、将来有望な若手研究者の研究を奨励助成し、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：300 万円 （年間 300 万円）/件

助成期間：1 年

採択件数：10 件（申請件数 140 件：採択率 7.14%）

令和 4 年度助成採択者一覧

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
青山 和正	東京大学 医科学研究所	特任 助教	ポリコーン抑制複合体 2 機能低下型骨髄異形成症候群のがん幹細胞維持機構の解明と新規治療標的分子の探索
井上 毅	大阪大学 免疫学フロンティア 研究センター	特任 准教授	COVID-19 mRNA ワクチンブースター接種による変異ウイルス中和抗体産生機構の解明
遠藤 裕介	かずさ DNA 研究所 先端研究開発部	室長	単一細胞レパトア-脂質オミクス解析による抗ウイルス応答メカニズムの解明
越智 陽太郎	京都大学 大学院医学研究科	助教	エピゲノム多様性に着眼した白血病の病態解明と患者層別化
木村 俊介	慶應義塾大学 薬学部	准教授	インフルエンザ感染における呼吸器 M 細胞の役割
小泉 真一	九州大学 生体防御医学研究所	助教	インフルエンザウイルス感染防御における炎症性線維芽細胞の役割解明
高島 謙	熊本大学大学院 生命科学研究部	助教	B 細胞の分化・機能の制御における「内在性ヒストン模倣因子」の役割
田久保 圭誉	国立国際医療研究 センター 研究所	生体恒常性 プロジェクト 長	正常造血幹細胞および白血病幹細胞の単一細胞レベルの代謝多様性の同定と制御機構解明
細川 裕之	東海大学 医学部	准教授	RUNX 転写因子を中心とした転写制御ネットワークによる T 細胞の運命決定とその破綻による T-ALL 発症メカニズムの解明
松田 重輝	大阪大学 微生物病研究所	准教授	クロストーク分泌型細菌毒素の作用機構の解明